

文教委員会資料

所管事務の調査（報告） 今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）について

資料1 「今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）」に関する
パブリックコメント手続結果について

資料2 「今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）」本編

参考資料 「今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）」概要版

令和8年2月9日
教育委員会事務局

「今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）」に関するパブリックコメント手続の実施結果について

1 概要

本市では、これまで、市立小学校の5年生及び市立中学校の1年生に対し、ハケ岳少年自然の家を利用して自然教室を実施してきましたが、施設等の老朽化に伴い、今後の自然教室の方向性及びそれに伴うハケ岳少年自然の家の方向性を策定します。これまで、様々な検討を行い、長期的な安全性やコスト比較、持続可能性の観点、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、この度、「今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性」の案を策定し、広く市民の皆様の御意見を募集しました。

その結果、53通（85件）の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題名	今後の自然教室及びハケ岳少年自然の家の方向性（案）に関する意見募集について
意見の募集期間	令和7年11月26日（水）～令和7年12月25日（木）
意見の提出方法	電子メール（意見提出フォーム）、ファクス、郵送、電子メール（Eメール）、持参
意見の周知方法	<ul style="list-style-type: none"> 市政だより（令和7年12月号掲載）、市ホームページ、教育だよりかわさき134号（令和7年11月発行）、X（川崎市シティプロモーション） 資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、こども文化センター、青少年教育施設、教育委員会事務局学校教育部指導課） アンケート調査に御協力いただいたその他市内利用団体への案内 関係各所での説明（小・中学校校長会、PTA、青少年育成連盟、附属機関（社会教育委員会議、青少年教育施設専門部会）
意見の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページ 資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、こども文化センター、青少年教育施設、教育委員会事務局学校教育部指導課）

3 意見募集の結果

提出件数	53通（85件）	
内訳	電子メール（意見提出フォーム）	51通（76件）
	ファクス	—
	郵送	—
	電子メール（Eメール）	2通（9件）
	持参	—

4 意見の内容と対応

(1) 意見の対応区分

【対応区分】

- A : 御意見を踏まえ、案に反映したもの
- B : 御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの
- C : 今後の取組を進めていく上で参考とするもの
- D : 案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの
- E : その他

【意見の件数と対応区分】

項目	A	B	C	D	E	計
1 自然教室に関すること	0	8	2	23	0	33
2 八ヶ岳少年自然の家に関すること	0	2	1	39	0	42
3 青少年育成連盟加盟団体やその他利用団体の活動に関すること	0	0	0	8	0	8
4 その他	1	0	0	0	1	2
合計	1	10	3	70	1	85

(2) 主な意見と本市の対応

ア 主な意見

自然教室においては、他施設での実施に関する意見（質・実施手法・保護者負担に対する意見）が、八ヶ岳少年自然の家においては、施設の存続に対する要望やクラウドファンディングを活用した維持に関する意見が、その他青少年育成連盟加盟団体を中心に、活動場所の確保についての支援を要望する意見や、施設廃止による富士見町との友好都市関係への影響に関する意見等が寄せられました。

イ 本市の対応

いただいた意見のうち、友好都市である富士見町に関することについて、意見を踏まえ、案の修正を行いました。

その他、用語の修正など、所要の整備を行っています。

5 具体的な意見と市の考え方

(1) 自然教室に関するご意見 (33件)

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
1	<p>最近、熊の出没情報が後を絶ちません。子どもを持つ親として、その心配のない場所であることを確認も事前にお願いできますと幸いであります。（同趣旨他1件）</p>	<p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団宿泊体験を行うものであるため、絶対に熊の出ない地域での実施となると、活動内容含め、かなり限定的になることが想定されます。</p> <p>この間、各施設等から熊の出没状況や対策等の情報を随時収集し、学校に対して提供するとともに、登山や野外活動時はグループ単位で行動すること、夜間や早朝の活動は注意することといった、自然教室実施時における注意喚起や、熊避け対策グッズの貸し出し等の対策を講じてきましたが、引き続き、自然教室の安全・安心な実施に向け、より一層の安全対策に努めてまいります。</p>	C
2	<p>教員として、反対の立場から意見を申し上げます。災害の危険があることは、本当に児童を守る上で避けては通れないことなので、その対応は必要だと思います。その上で、数年かけながら新しい施設を考える、本当に使用できない施設なのか考えるなら、納得します。</p> <p>しかし、突然の発表から、下見も一度しかできず、本当に児童の安全を守るための政策なのか、甚だ疑問が残ります。過去の自然教室の事故を踏まえて、八ヶ岳自然の家の安全性を総合的に判断し、その上で廃止にするのであれば、他の施設の安全性をきちんと綿密に調べてから行事を続けていくってはいただけないでしょうか。</p> <p>また、今年度他施設で実施したいくつかの教員からは、保健スタッフが常駐せず、電話をしてもなかなかタクシーが来ず、病院への搬送・手当が遅くなった例があったとも聞いております。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けています。また、設備機器についても多くの耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>なお、令和2年度から当該施設の抜本的な老朽化対策の検討に着手し、以降、議会及び教育委員会、校長会のほか</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>様々な機会を通じて、この間の検討状況を報告してきましたが、他施設での実施に当たっては、教員が実際に確認できるよう、実施施設を決定する際には、長期休業期間を中心に、これまでに6回視察ツアーを開催し、施設決定後は各校最大3回の実地踏査ができるようにしてきました。</p> <p>また、安全・安心な自然教室の実施に向け、小学校では2～3校に1人であった看護師を全校派遣に拡充するなど、より充実した体制に整えるとともに、他施設での実施結果から、市街地から離れた立地等の場合、救急車やタクシーの手配に時間を要することから、一部の施設については、令和8年度から緊急搬送用の車両を配備することとしました。</p> <p>今後も、安全性の確保に留意しながら、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
3	毎年酷暑なので、高原エリアでの活動を強く希望します。暑い最中の活動を敢えて行わせる必要性はありません。	<p>自然教室については、屋外での活動が中心となるため、八ヶ岳少年自然の家も含め、高原エリアで実施する場合においても、休息や水分補給など、暑さ対策を講じて実施しています。</p> <p>今後、子どもたちがより楽しめる、より充実した自然体験活動ができるよう、「選べる！チョイス！自然教室！」をコンセプトに、複数の施設から、学校ごとに時期や実施場所を選べる手法で実施していくますが、施設の選択に当たっては、学校が検討しやすいよう、施設の基本情報や、実施時期の気温情報も含めた周辺環境等について、メリット・デメリットも含め分かりやすくまとめた「自然教室実施候補地カタログ集」を作成しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
4	<p>建て替えができないなら別施設での運用が必要だと思います。子どもが宿泊教室で2年ほど前に宿泊した際に、災害のリスクがある地域という発表があり、川崎市の安全に対する考え方に対して疑問がわきました。</p> <p>また、現在は熊の被害も本州で起きています。建物の老朽化以外のリスクも多いので、他の市や県とで共用の施設を使うなどして、場所含め、一考いただきたいです。老人や外国人、所得の低い世帯だけでなく一般的な市民、この先成長して税金を納めることになる若い世代も大切にしていただきたいです。</p>	<p>経験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p> <p>自然教室については、今後、子どもたちがより楽しめる、より充実した自然体験活動ができるよう、「選べる！チョイス！自然教室！」をコンセプトに、複数の施設から、学校ごとに時期や実施場所を選べる手法で実施していきます。</p> <p>なお、他施設での実施に当たっては、学校が検討しやすいよう、施設の基本情報や、周辺環境等について、メリット・デメリットも含め分かりやすくまとめた「自然教室実施候補地カタログ集」を作成しており、教員が実際に確認できるよう、実施施設を決定する際には、長期休業期間を中心に視察ツアーを開催し、施設決定後は各校最大3回の実地踏査をできるようにしているほか、熊については出没情報の収集や対策を講じるなど、学校がリスクを把握し、安全・安心な自然教室を実施できるよう配慮しているところです。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	B
5	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>自然教室について、自然教室として学びが得られる活動を望みます。八ヶ岳少年自然の家の実施を通して、富士見町に訪れることで友好都市を知ったり、社会科学習にもつながる高原野菜の流通などを学んだり、野菜のたい肥化から収穫までの循環を通してSDGsを体験学習したりすることで、知識として身につけたり、子ども自身がSDGsについて考えて行動するようになりました。</p> <p>選べるチョイスで選択肢が増えるのは良いが、単に宿泊体験旅行で</p>	<p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えています。</p> <p>他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験する</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	あれば不要だと考えます。	<p>といった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
6	<p>子どもを持つ親として、八ヶ岳少年自然の家の敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されていると聞いてしまった以上、安全への不安はぬぐえません。別の複数施設の中から選択する形が現状ベターであると考えます。</p> <p>施設がどこであれ、自然に囲まれた普段と違った環境で、友人たちと生活を共にすることに意義があると考えます。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されていることから、「避難確保計画」や「施設の休所基準」等を策定するなど、ソフト面の安全対策を行うことで、当面は当該施設の利用は可能ですが、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、保有し続けることになる、現地での再編整備は、長期的な安全性の確保という課題を払しょくできないものと考えています。</p> <p>また、これまでの他施設での実施結果から、児童生徒の9割以上は充実した活動ができたと回答し、教員からは、移動時間が短縮されたことで児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見があるなど、おおむね好評を得ていることから、今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法を継続してまいります。</p>	B

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
7	<p>八ヶ岳が老朽化や災害地域ということで使用不可になるのは理解したが、代替案は、これまでと同レベルもしくはそれ以上にしてもらいたい。移動時間や引率者の負担、バス手配、予算など総合的にみて近場で済ませたい気持ちが先行している資料にしか見えない。他県にみんなで泊まりに行った、レクレーションが楽しかった、神奈川県ではない星空がキレイな場所で夜キャンプファイアをした、ハイキングをした、途中で具合が悪くなったり、仲違いもあったが協力して課題を解決したなど、自分自身も八ヶ岳での思い出は鮮明に記憶している。子どもたちにも同様の思い出を作ってほしい。廃止を先行するのではなく、代替場所をしっかりと確保してから決めてほしい。あとから致し方なく消去法で決めて前例を作るようなことはやめてほしい。神奈川県の施設を悪く言うつもりはないが、特別感がない。</p>	<p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようになることが重要であり、こうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>なお、全市立小中学校での確実な実施に向け、バスの早期確保や利用施設の拡充など、持続可能な実施手法を検討した結果、令和8年度実施分において、小学校115校のうち52校が、中学校52校のうち41校が他施設で実施することとなり、八ヶ岳少年自然の家の施設閉止となる令和10年度までに、全校他施設での実施は可能と判断しました。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
8	<p>私たちにとって八ヶ岳少年自然の家は、単なる「自然の中の宿泊施設」ではなく、川崎という過密都市に暮らす子どもたちが長年にわたり「生きる力」を育む学びの場として機能してきました。サマーキャンプをはじめとした継続的な利用の中で、子どもたちからは「何回行っても、毎回新しい発見があって感激する」「八ヶ岳の体験で価値観が変わった。サマーキャンプに行きたくて1年間子ども会議に通った」といった声を聞いてきました。不登校だった子が、この活動をきっかけに登校を再開した例も実際にあります。こうした変化は、単に「楽しかった」「充実していた」といったアンケート結果だけでは表現しきれない、深い教育的価値だと考えます。</p> <p>市の資料では、R6年度の他施設実施でも自然教室の目的は概ね達成されているとされていますが、そこに示されているのは「満足度」や「充実感」が中心であり、「価値観の変容」や「生き方にかかわるような学び」までは十分に測れていないのではないでしょうか。アンケートを根拠に「他施設で代替可能」と判断することには大きな限界があると感じます。</p>	<p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えています。</p> <p>児童生徒へのアンケート結果のみならず、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていることから、他施設であっても自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
9	<p>今後、AIの活用が当たり前になっていく社会においては、「正解を早く出す力」よりも、「何を問い合わせ、何を大切にして生きるか」を考える力が重要になっていきます。その意味で、八ヶ岳少年自然の家で行われてきた活動は、まさに現代的な価値をもつものです。木登り、秘密基地づくり、森の運動会、穴掘り、工作、キャンプファイヤー、森の宝探しオリエンテーリング、肝試し、ナイトハイク、入笠山の山頂から見る眺望、光り輝く星空、動植物との出会いなど、これらは、用意されたプログラムを消費するだけではなく、子ども自身が自然に働きかけ、「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちを原動力に展開してきた活動です。市が土地を所有し、一定の自由度と継続性が確保されていたからこそ実現できたものでもあります。間借りの他都市、民間の施設では到底できない活動です。</p>	<p>「今後の自然教室及び八ヶ岳少年自然の家の方向性（案）」記載のとおり、自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えています。</p> <p>他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	AI全盛の時代だからこそ、五感を総動員して自然と向き合い、自分の頭と身体で「不思議」「なぜ」を感じ取る経験は、将来の学びや生き方の根っこを支えるものです。この視点が方向性案の中で十分に位置づけられているとは言い難いと感じています。	<p>や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
10	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。今後気になるところとして、他施設の利用により、ノウハウの確立法や前年度の反省の活かし方が気になります。	<p>他施設におけるノウハウの蓄積等については、各学校においては、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実地踏査をできるようにし、学校間においては、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えました。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	B
11	八ヶ岳少年自然の家は、長年にわたり多くの小中学校が研修や自然体験活動に利用してきた施設であり、本市の教育活動を継続的に支えてきた重要な拠点です。他にも利用可能な施設がないわけではありませんが、少年自然の家ほど豊かな自然環境に恵まれ、かつ教育的な研修を体系的に行える施設は他にはありません。また、市内の小中学校が同一の施設を使い続けることには、教育上の大きな利点があります。利用方法や引率時の安全管理、プログラム運営に関するノウハウが学校間や教職員間で蓄積・共有され、世代を超えて円滑に伝承されてきました。施設が変われば、こうした経験の伝承は分断され、教育現場の負担増や安全面の低下にもつながりかねません。	<p>自然教室について、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>また、他施設におけるノウハウの蓄積については、各学校においては、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>地踏査をできるようにし、学校間においては、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えています。</p> <p>今後も、教員の負担軽減や安全対策を講じながら、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
12	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>自然教室について、選べるチョイスにより、学校ごとに内容が違つていいのでしょうか。教育は平等であるべきではないのでしょうか。</p>	<p>自然教室における2泊3日の行程については、八ヶ岳少年自然の家を利用する場合であっても、各学校が活動内容を選択しており、学校ごとに多様なプログラムが行われています。</p> <p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようになることが重要であり、こうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
13	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>自然教室について、宿泊場所により、保護者負担額が変動することについて、懸念を持っています。</p>	<p>自然教室における保護者負担については、これまで、食事代や体験活動等に関する費用を保護者負担、それ以外のバス等の移動費や施設の利用料等を公費負担としており、今回、他施設で実施する場合も同様の考え方とし、バス代等の移動費に加え、宿泊場所によって異なる宿泊料についてもすべて公費負担としています。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>なお、八ヶ岳少年自然の家を利用する場合であっても、各学校が活動内容を選択していることから、従前から保護者負担額は学校ごとに差が生じています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
14	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。今後気になるところとして、他施設の利用により、各家庭で負担する費用がどうなるかが気になります。	<p>自然教室における保護者負担については、これまで、食事代や体験活動等に関する費用を保護者負担、それ以外のバス等の移動費や施設の利用料等を公費負担としており、今回、他施設で実施する場合も同様の考え方とし、バス代等の移動費に加え、宿泊場所によって異なる宿泊料についてもすべて公費負担としています。</p> <p>保護者負担額については、施設や実施内容により異なるものの、春の実施では食事代や保険料に係る費用として百円から4千円程度、冬の実施では食事代や保険料及びスキーに係る費用として2千円から1万円程度の増となっています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	B
15	小中学生で1回ずつ宿泊行事で使用し、高校では地学部の宿泊行事で毎年使ってきました。八ヶ岳少年自然の家は、他の施設と比べても安価で抑えられていることも明確で、川崎市の小学生の宿泊行事を支えている、なくてはならない存在だと思います。	自然教室について、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。	
16	<p>川崎市を中心に活動している天文同好会です。年4～5回少年自然の家で天体観察をしたり、天体写真を撮影しています。</p> <p>自然教室の負担について、保護者にとっても他都市の民間施設を使った自然教室は確実に割高になるものと思います。</p>	<p>自然教室における保護者負担については、これまでも、食事代や体験活動等に関する費用を保護者負担とし、それ以外のバス等の移動費や施設の利用料等を公費負担としており、今回、他施設で実施する場合も同様の考え方とし、バス代等の移動費に加え、宿泊場所によって異なる宿泊料についてもすべて公費負担としています。</p> <p>なお、八ヶ岳少年自然の家を利用する場合であっても、各学校が活動内容を選択していることから、従前から保護者負担額は学校ごとに差が生じています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
17	<p>八ヶ岳少年自然の家には、学生の時に利用しました。当時はそこが富士見町にあるとか、友好都市であるとかは覚えていませんでしたが、行ったこと、友だちと一緒に過ごしたことは思い出に残っています。ただ、今回の資料を見て、各学校が選んで自然教室を行える、と言うのは合理的だと思いました。施設ごとにかかる費用が違うというのも理解はできますが、事前にこういった費用でこれくらい掛かるというのを説明していただきたいのと、費用に見合った体験を子どもには経験してもらいたいと思います。</p>	<p>自然教室における保護者負担については、これまでも、食事代や体験活動等に関する費用を保護者負担、それ以外のバス等の移動費や施設の利用料等を公費負担としており、今回、他施設で実施する場合も同様の考え方とし、バス代等の移動費に加え、宿泊場所によって異なる宿泊料についてもすべて公費負担としています。</p> <p>負担額については、施設や実施内容により異なるものの、春の実施では食事代や保険料に係る費用として百円から4千円程度、冬の実施では食事代や保険料及びスキーに係る費用として2千円から1万円程度の増となっており、各施設の食事代やスキーレンタル費用等の情報については学校に提供し、各学校では、それに体験活動費を加えた負担額を保護者に対し説明するなどの対応に努めているところです。</p>	B

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。	
18	山の中はどこも土砂災害警戒区域はあると思います。そして運転手問題は行き先を変えたとしても同じです。公立学校で、宿泊行事で使用するのだから、市でバスまで用意してもいいのではないかと思っていました。学校ごとに手配する手間も省けるし、市バスもあるのだから業務提携も可能なのではないかと思っていました。未来を担う全ての子どもに、特に経済的、家庭問題により経験できないことを公として経験させる機会を守ってください。	<p>自然教室で利用するバスについては、学校ごとではなく、教育委員会事務局で一括発注しています。</p> <p>市でバスを調達することについては、八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施する場合、小学校では2～3校が同日に実施しているため、常時10台以上のバスを使用する必要があることから、観光バスの購入費用及び維持管理費に相当のコストがかかることなどから実現は困難なものと考えております。</p> <p>また、市バスの活用については、運転手確保が困難な状況は市バスにおいても同様であり、加えて、令和6年4月からの労働規制強化に伴い貸切バス事業への対応がより困難な状況となっております。なお、市バスの仕様上、客席にシートベルトが装備されていないことから、高速道路を走行することはできません。</p> <p>自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えていますので、引き続き実施してまいります。</p>	D
19	教員として、教員の働き方改革の観点から、自然教室含めた宿泊学習においては、夜中に具合が悪くなった子どもの看病や、場合によつては、トイレのために夜中子どもを起こしてほしいといった保護者の要望もあり、24時間対応しなければならない状況が生じています。一	引率する教員の負担については、日中・夜間問わず、児童生徒への指導及びケガや病気等への対応など、2泊3日の自然教室実施期間中、充分な休息が取りづらく負担が大きいものと考えています。	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	方で教員の勤務時間は24時間体制とはなっていません。きちんと説明や対応がなされないまま負荷がかかる状況が続くと、教員の働く意欲にも直結すると思います。	宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、教員が児童生徒の指導に専念できる体制を整えるなどの負担軽減策を講じており、今後も引き続き、教員が安心して自然教室の実施に専念できるよう、負担軽減に取り組んでまいります。	
20	教員として、自然教室については、これを機に止める方向性にしてはどうか。現在、学校以外の様々な団体も集団での宿泊学習を行っており、学校が膨大な時間と労力とお金を割いてまで自然教室に取り組む必要があるのかが疑問です。	自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えていますので、引き続き実施してまいります。	D
21	中学1年生です。自然教室で八ヶ岳少年自然の家を利用する予定です。以前、小学5年生の時に利用した際には、星の棟に宿泊して、友だちと楽しいひと時を過ごしました。今も覚えています。北岳食堂に行って、朝ご飯をたくさんおかわりして、入笠山に行ったり、外でみんなでカレーを作ったりしました。 以上のような思い出がたくさん残っていることから、少年自然の家を青少年教育施設として残していく必要があると感じました。小学5年生の自然教室は、友だちと初めて行く宿泊体験でもあります。その貴重な体験を、緑に囲まれた八ヶ岳で味わえるというところは、川崎の魅力であるとも思っています。	自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えています。 他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。	
22	<p>川崎市の元教員です。現職時代、数多く八ヶ岳の施設を利用してきました。川崎から近く、自然がいっぱい、こんなに広々とした施設は他にはないといつも思っていました。</p> <p>代替施設を各学校で探している、という話も聞きました。とんでもないことです。代替施設を完全に見つけ、契約してから廃止してください。これは川崎市が子どもたちの教育を軽視している証拠です。子どもたちは初めての自然教室を楽しみにしています。これは市が進もうとしている方針の転換に自然教室の廃止も入っているのではないかということです。そうでなければ、私たちが納得するような理由を説明してください。</p>	<p>自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えていますので、引き続き実施してまいります。</p> <p>なお、他施設での実施に当たっては、学校が検討しやすいよう、施設の基本情報や、実施時期の気温情報も含めた周辺環境等について、メリット・デメリットも含め分かりやすくまとめた「自然教室実施候補地カタログ集」を教育委員会事務局で作成しており、教員が実際に確認できるよう、実施施設を決定する際には長期休業期間を中心に視察ツアーや開催し、施設決定後は各校最大3回の実地踏査ができるようにしているほか、施設の予約やバスの手配についても、事務局で手配しています。</p> <p>また、全市立小中学校での確実な実施に向け、バスの早期確保や利用施設の拡充など、持続可能な実施手法を検討した結果、令和8年度実施分において、小学校115校のうち52校が、中学校52校のうち41校が他施設で実施することとなり、八ヶ岳少年自然の家の施設閉止となる令和10年度までに、全校他施設での実施は可能と判断しています。</p> <p>今後も自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
23	長い間川崎市立小学校の教員をしてきました。他の施設を探すということは、学校ごとにそれぞれ探すということですか。それでは学校の負担がより大きくなるのではありませんか。	<p>自然教室について、他施設での実施に当たり、学校が検討しやすいよう、施設の基本情報や、実施時期の気温情報も含めた周辺環境等について、メリット・デメリットも含め分かりやすくまとめた「自然教室実施候補地カタログ集」を教育委員会事務局で作成しており、教員が実際に確認できるよう、実施施設を決定する際には長期休業期間を中心に視察ツアーを開催し、施設決定後は各校最大3回の実地踏査をできるようにしているほか、施設の予約やバスの手配についても、事務局で手配しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
24	<p>現在の施設の再整備や移転に多額の費用がかかるため、自然教室は他施設を使用する方向性としてはよいと思います。</p> <p>実施場所について、私が勤務する学校では、職員や児童の声を聞かずに管理職と総括教諭で実施場所を決めましたが、自然教室に行く子どもたちは決まっているため、子どもたちが投票できるようにしてもらえるとよいかなと思います。</p> <p>また、現在対象施設に含まれていない施設も検討できるようにしてほしいです。</p>	<p>自然教室について、実施場所の選定に当たっては、自然教室の実施目的に沿って、子どもたちにどのような学びや体験をさせたいか、学校ごとに考え、その実情に合わせて、充実した活動ができる時期や施設を選ぶ手法は、今の学校にマッチしており、宿泊施設のキャパシティなど物理的に難しい場合もあるものの、子どもの意見を聞くことも含め、各学校の実情に合わせて決定すべきものと考えています。</p> <p>また、対象施設については、関東近県120か所近くの候補施設から、充実した自然体験活動が可能で、十分な活動時間が確保できる可能性が高いと考えられる施設を視察し、施設や周辺環境等の状況、詳細な利用条件等の確認を行い、これまで八ヶ岳少年自然の家で培ってきた自然教室とほぼ同等、又は、場合によってはより充実した活動ができると想定される施設を選定しています。御提案いただいた施設についても視察等を行っており、空きがないなどの理由で除外しましたが、学校がより多くの選択肢から選べ</p>	B

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		ることが重要であることから、更なる利用施設の拡充に取り組んでまいります。	
25	<p>川崎市を中心に活動している天文同好会です。年4～5回少年自然の家で天体観察をしたり、天体写真を撮影しています。</p> <p>自然教室の負担について、教員の方々も施設の下見から運営までの負担が増えるものと思います。看護師や添乗員など他施設で行う場合のメリットは自然の家で実施する場合も導入可能かと思います。</p>	<p>他施設で実施する場合は、引率する教員の負担軽減策として、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実地踏査ができるようにし、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えています。また、宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、教員が児童生徒の指導に専念できる体制を整えたほか、教員を目指す大学生等が教員を支える指導補助員制度の充実を図ったり、他施設においても様々な専門家の協力を得ながらプログラムを実施するなど、教員を支える対策も講じています。</p> <p>なお、八ヶ岳少年自然の家で実施する場合は、市の施設であり、維持管理する指定管理者がいることから、添乗員は同行の必要がないこと、看護師については、小学校においては複数校に1人ではあるものの、現状も同行しています。</p> <p>今後も引き続き、教員が安心して自然教室の実施に専念できるよう、負担軽減に取り組みながら、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
26	<p>方向性案では、「他施設活用」がもっともコスト効率に優れ、バス手配の困難さにも対応できる選択肢であるとされていますが、いくつかの疑問があります。</p> <p>●バス手配問題の「一時性」への検証不足</p> <p>バス運転手不足や入札不調は全国的な問題であり、一時的な需給ひっ迫の影響も大きいと考えられます。鉄道利用や複数校でのバス共同利用など、柔軟な工夫によって乗り切る余地があるにもかかわらず、</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施する場合、年間600台、小学校では2～3校が同日に実施するため、常時10台以上のバスを走行させる必要があること、学校での鉄道利用については、相当数の人数での移動になるため、鉄道会社との事前の調整が相当必要であることなどから、交通手段の安定的な確保は、自然教室の持続可能な実施手法を検討するに当たって重要な要素の一つであると考えてい</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>「バスが確保しにくい」ことを施設廃止の大きな理由とするのは短絡的ではないでしょうか。</p> <p>●社会教育施設に対する「費用対効果」一辺倒の評価</p> <p>社会教育や自然体験活動は、本来、短期的な金銭的「効果」で測りにくいものです。探究的な学び、豊かな人間形成、コミュニティの形成など、長期的かつ非金銭的な価値を生み出す領域において、「年間コストの比較」で結論を出すことは乱暴なことと言わざるを得ません。</p> <p>●「他施設で目的は達成できる」と「自前施設の価値」は別問題</p> <p>他施設でも確かに楽しい体験はいろいろ想定できますが、それがレジャーや観光旅行のような消費体験にとどまる懸念は払拭できません。反面、自前の豊かな自然環境の教育施設を持ち続けることによって、より深い学びの可能性を得ることができます</p>	<p>ます。</p> <p>また、自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道德などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えていますが、市税という限りある財源を活用する以上、コスト比較の観点は必要不可欠であり、これまでの実施結果からは、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
27	<p>方向性案では、各学校がそれぞれ異なる行き先を選択することができるという形が想定されています。しかし、この方式は現場の教員にとって大きな負担増につながる懸念があります。</p> <p>行き先が毎年変わることで、担当教員はその都度、未知のフィールドの事前調査を一から行わなければなりません。学校として毎年同じ行き先を選んだとしても、教員の異動により担当者が同じ施設を経験しているとは限らず、毎年度「どこに行くか」から検討し直す必要が生じます。</p> <p>一方、私たちはこれまで、バードウォッチング（日本野鳥の会）、植物観察ガイド、ツリークライミング指導者など、多様な専門家の協力を得ながら、質の高い体験活動を実施してきました。こうした外部人材の協力は、毎年同じ施設を使うからこそ得やすく、継続的な関係構築が可能になります。</p> <p>こうしたやり方を自然教室でも考えれば、教員の負担軽減と体験の</p>	<p>教員の負担軽減策については、他施設においてもノウハウが蓄積されるよう、各学校においては、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実地踏査をできるようにし、学校間においては、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えています。</p> <p>また、宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、教員が児童生徒の指導に専念できる体制を整えたほか、教員を目指す大学生等が教員を支える指導補助員制度の充実を図ったり、他施設においても、様々な専門家の協力を得ながらプログラムを実施するなど、教員を支える対策も講じています。</p> <p>今後も引き続き、教員が安心して自然教室の実施に専念</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	質の向上にもつながり、社会教育の力を生かした「働き方改革」にもなると思います。お金はかかりますが、これを機会に自然教室の在り方を教員主導のやり方から社会人材を援用して教員の負担軽減につなげていく発想に転換したらいかがでしょうか。	できるよう、負担軽減に取り組んでまいります。	
28	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。昨年度行った中学生の子どもは床の老朽などが気になったと申しておりました。また、スキー場から自然の家が遠く、スキーに触れる時間も限定的だったのが親として残念に思うところでしたので、近場の宿泊施設が利用できればありがたいと思います。	自然教室について、これまでの他施設での実施結果から、児童生徒の9割以上は充実した活動ができたと回答し、教員からは、移動時間が短縮されたことで児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見があるなど、おおむね好評を得ていることから、今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法を継続してまいります。	B
29	川崎市在住ですので、八ヶ岳での自然教室が川崎市の小学生にとって当たり前のものと思っていましたが、他施設の利用で移動距離が短くなれば、子どもの体力的な負担も減ることを考えると、メリットも多いと感じました。中学生以降は私立に進学する子どももいることを考えると、少なくとも小学生のうちは、可能であれば神奈川県内やその近隣の県（山梨・静岡・千葉など）を中心施設を選べるようにするとよりいいのではと感じました。	これまでの他施設での実施結果から、児童生徒の9割以上は充実した活動ができたと回答し、教員からは、移動時間が短縮されたことで児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見があるなど、おおむね好評を得ていることから、今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法を継続してまいります。	B
30	青少年施設として廃止する案に反対します。 代替施設を活用する案が示されていますが、八ヶ岳ならではの自然環境、活動プログラム、宿泊体験の質を同等に確保できるかは不透明です。自然教室は「どこでやっても同じ」ではなく、環境・季節・地形・施設規模などの条件が教育効果に直結します。代替先が民間施設となる場合、費用負担や受け入れ枠の問題から、公平性の確保も難しくなります。自然体験・環境教育の質が代替施設で確保できる保証がありません。	自然教室については、八ヶ岳少年自然の家を利用する場合であっても、各学校が活動内容を選択していることから、学校ごとに多様なプログラムが行われており、保護者負担額についても学校ごとに差が生じています。 なお、自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>必要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、こうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
31	<p>市外在住・在勤ではありますが、かつて市内の中学校に通い、所属していたスポーツクラブの選手・指導者として利用していました。</p> <p>現在、在住・在勤している自治体では、青少年の課外学習施設は市内にあることが多いようですが、八ヶ岳少年自然の家は長野県にあり、そこに到着するまでの時間が、ワクワクする気持ちを増幅させたり、移動の時間というのは、その年代にとって、かけがえのないものであったりします。先生にとっては、移動時間の短縮により指導時間が増やせるという意見もあると思いますが、指導と自由時間の中間のような曖昧な時間帯を、バスの中等の閉鎖された環境で過ごすことは、先生、生徒お互いに、そう悪いものでもなかつたように思います。</p>	<p>他施設での実施結果からは、移動時間が短縮されたことにより、児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見のほか、児童生徒の体調不良時、保護者による引取時間が短縮される等迅速な対応が可能など、そのメリットについて多くの意見がありました。</p> <p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、こうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。 今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。	
32	八ヶ岳少年自然の家をどうしても廃止するなら、これからの中学生たちの学習がしっかりと担保される場所を見つけるまでは八ヶ岳で続けてもらいたい。	全市立小中学校での確実な実施に向け、バスの早期確保や利用施設の拡充など、持続可能な実施手法を検討した結果、令和8年度実施分において、小学校115校のうち52校が、中学校52校のうち41校が他施設で実施することとなり、八ヶ岳少年自然の家の施設閉止となる令和10年度までに、全校他施設での実施は可能と判断しています。 今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。	D

(2) ハケ岳少年自然の家に関するこ (42 件)

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
33	<p>スキーで毎年1月と2月に利用しています。</p> <p>ハケ岳少年自然の家は老朽化ということ、また、土砂災害等の危険性もあることから、自然教室は他の施設での開催ということで残念ですが、ハケ岳少年自然の家を今までどおり一般利用ができるよう存続してほしいと思っています。川崎にはない自然色々と経験や体験ができる施設は中々ないと思います。来年も利用できること願っています。</p>	<p>ハケ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けています。また、設備機器についても多くの耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p>	D
34	<p>市内のNPO法人として、夏場は自然体験型イベント、冬場はスキー教室などで利用しています。</p> <p>自然豊かな環境で普段活動できないことを体験できるのはとても貴重で、子どもたちも楽しみにしており、保護者からも大変好評で、リピーターでの参加やイベント後家族で利用しているケースも見られます。ハケ岳少年自然の家を今後も利用させていただきたいと考えておりますので是非、再検討の程お願いいたします。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、ハケ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	
35	<p>青少年施設として廃止する案に反対します。</p> <p>ハケ岳少年自然の家は単なる宿泊施設ではなく、川崎市の人たちにとって“自然の中での集団生活・自立性・協働性を育む拠点”として特別な役割を果たしてきました。</p> <p>市民に共有されてきた教育的・文化的価値の大きさを考えると、このような公共資産を失うことは、市としての歴史や市民の共有体験を断ち切ることにつながります。代替では完全に補うことはできません。廃止ではなく、存続と改善を前提とした再検討を強く求めます。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、ハケ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	
36	<p>青少年施設として廃止する案に反対します。</p> <p>ハケ岳少年自然の家は、市立学校だけでなく子ども会・青少年団体など幅広い市民に開かれてきた公共施設です。廃止後は、こうした団体の活動場所が失われ、結果として「利用できる家庭／団体」と「利用できない家庭／団体」の格差が生まれる可能性があります。子どもの健全育成を目的とした公共施設は、将来世代のためにも継続的な運営が望まれます。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、ハケ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
37	八ヶ岳少年自然の家の一部が危険地域に指定されていると知り、不安に思いましたが、現地調査をした市議から、ほんの一部で危険は少ないとの説明を受けました。小中学校の自然教室やボーイスカウトなどの団体が利用する大切な施設、廃止は絶対反対です。ぜひ安全な地盤の上に新たな少年自然の家を新設及び改築して欲しい。他の行政施設の利用を勧めているようですが、他施設も築50年と、老朽化しているそうですね。川崎市の政令市トップの財政力を、子どもたちや市民のために使っていただきたいと切望します。ぜひ再考をお願いいたします。		
38	<p>今回の「八ヶ岳少年自然の家は青少年教育施設としての用途を廃止する」という方向性（案）は、本当に残念です。サッカークラブの夏季合宿で利用してきました。二泊三日の合宿ではサッカーに関する活動だけでなく、高学年の子どもたちと低学年の子どもたちを混在させた班ごとの活動を中心に、子どもたちの自主性を引き出す活動もしており、最適な施設でした。</p> <p>また、費用的にも減免措置があり、大変リーズナブルに利用させていただいていた施設が利用出来なくなるのは、大変困った話です。</p> <p>ぜひ何らかの形で、利用継続できる方法も検討してください。</p>		
39	この施設に楽しそうに向かう地学部を毎年楽しく見ていました。どうか宿泊施設を残して欲しいです。どうかお願ひします。		
40	八ヶ岳少年自然の家は、学校利用だけでなく一般の市民にも開かれた保養施設としての役割を担ってきました。市民が豊かな自然の中で心身を休めることのできる公共施設は、都市化の進む川崎市において非常に貴重な存在です。特に夜空に広がる星空は、川崎近郊ではほとんど体験できない素晴らしいものであり、望遠鏡や観測所など観察環境も整っています。子どもたちが星空に感動し、科学や宇宙への関心を育む場として、また市民が自然と向き合う場として、少年自然の家を今後も存続・発展させることを強く望みます。		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
41	<p>川崎市を中心に活動している天文同好会です。年4～5回少年自然の家で天体観察をしたり、天体写真を撮影したりしています。自然の家から撮影した美しい星空の写真などを、かわさき宙と緑の科学館等市内の施設で、市民の皆様に紹介する活動も続けています。少年自然の家の魅力にアストロハウスという天文施設があり、33年間、もう100回以上も利用しています。</p> <p>このアストロハウスは、国内はもとより世界に誇る天文教育施設で、自然教室では川崎の多くの子どもたちが毎年星空のすばらしさを体験しています。また、一般市民向けの観望会も年間を通じて実施されていて、公開天文施設として稼働率は日本屈指と聞いております。</p> <p>少年自然の家は、古くなっていますが、よく整備されていてまだまだ利用可能だと感じています。あと3年で廃止というのはあまりに惜しい気持ちです。川崎の子どもたちが共通してこの八ヶ岳山麓という絶好の立地条件で、すばらしい自然や星空を案内してもらい体感することができるという施設を閉じるというのはあまりに残念な判断ではないかと思います。施設の整備は、時間をかけていくことで予算面での課題も対応できるのではないかと思います。現に開設から48年間、問題なく利用できていることから、一定の対策を施しつつイエローゾーンでの整備も検討するとよいと思います。心配される大雨等の場合の利用中止等で事故は防げるものだと思います。この点、専門的見地から更に検討した方がよいものと思います。じっくり時間をかけて検討・整備していくことを切に希望しています。</p>		
42	あそこで思い出は結構どころじゃないくらいとっても大事なものなんです。その思いを継いでいけないのはとても悲しい。確かに土砂災害危険区域かもしれません、取り壊すことは反対です。		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
43	<p>全面的な廃止や新築による再編ではなく、保存と改修を前提とした継続利用の可能性を、今一度ご検討いただきたい。本施設の敷地内には、かつて「八ヶ岳少年自然の家」と「川崎市市民休暇村」が別棟として併存しており、教育利用と市民利用の双方の役割を担ってきた時代がありました。私自身も子どもが小さい頃から家族と共に繰り返し訪れ、宿泊や自然体験を重ねてきた、思い出深い場所です。一時期、一般市民の宿泊利用ができなくなり、今回の廃止の検討がなければ、一般市民が再び利用できる施設であったことすら知りませんでした。</p> <p>安全性の確保が最優先であることは、強く同意しますが、危険区域を除外し、安全が確保できるエリアに残る建物を活用した上で、配管を含む老朽設備の改修、耐震・防災上の補強を段階的に行い、必要最小限の施設を追加するといった方法も、現実的な選択肢として考えられるのではないかでしょうか。新築を前提として、非常に大きな費用が見込まれていますが、全面的な新設では、長年積み重ねられてきた思い出や場所性が失われることにもつながりますし、建築資材や人件費が高騰している現状も踏まえると、慎重な検討が必要だと感じます。</p> <p>市民が比較的リーズナブルな価格で利用できる公共の宿泊施設は、大変貴重な存在です。廃止ありきではなく、保存・改修・活用という視点を含めた再検討を、市民に残す方向での検討を切に望みます。</p>		
44	<p>48年前、公害の町と言われた川崎で、「せめて子どもたちには良い空気を吸わせたい」という思いから、先人たちは思い切ってこの土地を取得し、環境を整えてきました。教育にはお金がかかります。大きな投資だったと思います。まさに100年の計でした。その長年の努力と先見性を、「一時的なバス事情」とか「年間コストの差」などの理由で帳消しにしてしまっては、将来振り返ったときに大きな悔いを残すのではないかでしょうか。本当にこんな宝物を手放してしまうのですか。10年後、20年後に「あのとき残しておけばよかった」と悔いることがないよう、今一度立ち止まり、時間をかけた丁寧な議論と再検討を強く望みます。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
45	<p>2人の息子がおり、長男は自然教室で、次男はシラミ発生で自然教室が三浦に変更になったため、家族で利用しました。</p> <p>それまでは一般の川崎市民も利用できるとは知らず、宿泊や食事を含めても料金的に利用しやすく有り難い施設だと思いました。八ヶ岳少年自然の家は、ただそこで数日過ごすだけで心身がリラックスし、リフレッシュできます。自然散策やクラフト、アストロハウスでの星空観測などのお楽しみもあります。ただし、基本は自主活動であり特別なサービスは提供されないので気が楽なのも良い点です。</p> <p>施設の老朽化などの理由で、今後子どもたちの自然教室の利用はなくなるとのことです、この環境と施設は、たとえ全てではなくても、市民のために残して欲しいと思います。川崎市民でも、こちらの施設の存在すら知らない人は多いと思います。今後利用できる所は残し、利用対象層を拡大し、アストロハウスや食堂は民間企業と協力したり、健康増進施設としての機能を持たせるなどし、それに伴い利用料金も改定してはどうでしょうか。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、規模縮小の場合であっても、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>なお、施設の特性上、平日は主に学校での利用が想定されること、また、施設の立地上、自然教室以外の利用状況からは、市内の団体や家族・グループの利用は、長期休業期間や3日以上の連休での利用が多く、普段の土日の利用は少ない状況を鑑みると、PR活動や創意工夫により、他都市の学校や一般の利用が増える可能性はありますが、主な利用が他都市になる中、限りある財源である市税を投入し続けることはものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	D
46	<p>川崎市が掲げる多様性は、人だけでなく、学びの場の多様性にも反映されるべきです。川崎の子を川崎の都会の中だけでなく、広い世界とのつながりの中で育んでいきたいものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 農山村留学や林間学校のような取り組み - 不登校特例校（学びの多様化学校）との連携 - 友好都市との交流拠点（特に富士見町と積み重ねてきた交流価値は計り知れない。） <p>こうした文脈の中で、八ヶ岳少年自然の家の「次のかたち」を構想</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、規模縮小の場合であっても、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>することも可能なはずです。私的には今の形をベースに改善するのが最善と考えますが、規模や機能の見直しという視点もありかと思います。長期滞在型の学びの場としての再編など、「市が郊外に持つ教育拠点」としての将来像という観点からも、もっと時間をかけて検討すべきだと考えます。</p>	<p>け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。</p>	
47	<p>土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）および警戒区域（イエローゾーン）の指定を受け、安全性への懸念が示されていることは理解します。しかし方向性案では、指定を受けたのが遡って平成25年（12年前）であるのに、なぜ今になって「廃止を含めた検討」に直結するほどの重大事と判断したのか、指摘を受けてから現在までの長期間、なぜ利用を継続してこられたのか、避難計画等のソフト面に加え、ハード面の対策を時間をかけて検討する余地はないのかといったことについて、十分な説明がなされていません。もし本当に切迫した危険があるのであれば、まずは速やかな利用中止が行政の責任ある対応であったはずが、天候に応じた判断や避難路の確保等によりリスクコントロールが可能なのであれば、「即廃止」を前提とするのではなく、改善・対策の道を探るべきではないでしょうか。</p> <p>そもそも、市が保有する敷地は他都市もうらやむ36万m²という広大な土地です。ほんの一部が警戒区域にかかっているだけですべてを手放す必要があるんでしょうか。自然体験に伴うリスクを過度に恐れ、「自然教室はやらない方が安全」という方向に傾くことは、かつて公園から遊具を次々と撤去し、ボール遊びを禁止し、子どもの遊び場がゲームの世界に押しやられていった同じ轍を踏む危険性をはらんでいます。重要なのは「危険からただ遠ざかること」ではなく、具体的な危険を予見し、それに対する対策・判断力を育てるという科学的視点を、安全議論の中にしっかり組み込むことだと考えます。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されていることから、「避難確保計画」や「施設の休所基準」等を策定するなど、ソフト面の安全対策を行うことで、当面は当該施設の利用は可能ですが、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、保有し続けることになる、現地での再編整備は、長期的な安全性の確保という課題を払しょくできないものと考えています。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
48	八ヶ岳少年自然の家には、子どもがお世話になりました。コロナ等もあった中で、本当に貴重な経験であったと思います。自然教室には、普段は川崎市という都会で生活する子どもたちが、自然に触れ合うことができ、親の負担がないと、なかなかできないスキーというスポーツを体験できるとても良い機会であります。ぜひ継続をお願いします。ただ、それだけなら、他の施設にて実施することで代用できるのかもしれません、川崎市の子ども全員が、同じ川崎市の施設で自然体験をできることは、これは他施設では代用できません。子どもたちは、将来はいろいろの活躍をしていく中で、バラバラになっていくわけですが、同じ川崎市の施設で同じ釜の飯を食べた経験は、大きな繋がりの力になると思います。知らない間柄で初対面でも、「君は川崎市出身なの？じゃあ、あの八ヶ岳に行ったよね？」といった会話は、同郷としての親密感にも良い影響になると思います。市の財源としての固定資産の削減は理解しますが、子どもたちの貴重な経験のために、八ヶ岳少年自然の家を残すように、強く希望いたします。	<p>自然教室について、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>また、八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、他の敷地での移転整備も含め、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
49	少年自然の家には小学5年生の時に自然教室でお世話になりました。雄大な自然やおいしい空気、アストロハウスでみた満天の星空を、今でも覚えています。自然の家が閉まってしまうのは、そういう経験をする機会が減ってしまうということでもあると思います。それはとても寂しいことです。難しいかもしれません、運営を継続していただけますよう、お願ひ申し上げます。		
50	市内の高校生です。小5年、中学1年ともに、とても貴重な自然の中での活動、学校の友だち等との宿泊体験は、今も記憶に強く残る思い出です。今後の学生がそれを経験できないのは残念に思います。できるのであれば継続していただきたいです。		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
51	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>2年前よりたい肥作りと野菜収穫、カゴメ工場見学などを子どもたち引率で実施しています。たい肥作りについては、富士見パノラマリゾートと模索しながら子どもたちと実施してきており、いくつかの小学校も弊社でテストしてきたSDGsプログラムを実施しています。今年引率した子どもたちは昨年自分たちが作ったたい肥で育った野菜を実際に収穫し野菜が苦手な子どもも食べました。自然の家のスタッフが子どもに慣れていて臨機応変な対応をしてくれ、子どもたち自身で環境問題・友好都市・星空・流通などの学びを得ています。この体験活動に参加した子どもたちが自分の学校の自然教室の際にリーダーや役割を率先してやっていると聞いています。予算の問題もあるかと思いますが、富士見町内の存続を願います。</p>	<p>富士見町内での移転については、現地での再編整備における課題の一つである地形的な課題は払しょくされるものの、自然教室は他施設活用により実施していくこと、現在の施設における自然教室以外の利用の多くが、夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、他の敷地に移転する場合であっても、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地を新たに取得し、60年以上使用する施設を整備し保有することは、利用状況及びコスト比較の観点から難しいものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、施設閉止予定である令和10年度までは、引き続き利用可能です。なお、青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組んでまいります。</p>	D
52	<p>子どもたちの自然体験の場として年間数回利用しています。富士見パノラマリゾートやカゴメ工場など様々な自然体験ができる場所にアクセスもよく、施設の方も子どもたちの受け入れに慣れており、安心して利用することができます。また多くの子どもがたくさんの思い出を残し、成長し、また訪れた時には自分より小さな子どもたちと同じ施設で同じ景色を共有でき、世代は変わっても同じ思い出を残せる場所になっていると感じています。</p> <p>富士見町内の移転に賛成です。再検討の程よろしくお願ひいたします。</p>		
53	<p>「第一案：現地での再編整備」又は「第二案：富士見町内の移転整備」を希望します。</p> <p>これまで、子どもの自然教室、地元剣道会の夏合宿に加え、毎年夏の家族旅行に、最適の環境と場所として利用しました。これからのお子もたちが、あの自然環境やプラネタリウム他の設備を体験できなくなることは、とても残念なことと考えます。現状継続のためには、施設や設備の安全・経済性の維持が不可欠である点は承知しており、3</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家は、令和6年度実績で、自然教室での利用以外に、団体利用、グループ・家族利用がありますが、今後、他施設活用により、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>つの検討案で、コストが最優先されれば「第三案の他施設の活用」が効率的であることは理解しましたが、自然環境や機能面のメリット、市民の存続希望の声などを最優先した場合にできることとして、たとえば利用率を高めることで第一案、第二案の可能性があるのであれば、施設の老朽化や安全対策を行うことが前提ですが、これまで以上に、利用率を高めるための市民県民へのPR販促活動を期限付きで一定期間実施していただき、その結果を見て再検討していただくことを切に願っています。</p>	<p>営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>なお、施設の特性上、平日は主に学校での利用が想定されること、また、施設の立地上、自然教室以外の利用状況からは、市内の団体や家族・グループの利用は長期休業期間や3日以上の連休での利用が多く、普段の土日の利用は少ない状況を鑑みると、PR活動により、他都市の学校や一般の利用が増える可能性はありますが、主な利用が他都市になる中、限りある財源である市税を投入し続けることは、同じく課題があるものと考えます。</p>	
54	<p>この地が危険な場所であるなら、この近郊に移転しても自然の家の再建を切に希望致します。</p> <p>子どもたちの自然に触れる学習は人間形成において必要不可欠なものです。現在は、子どもたちが遊ぶ近隣の公園等の自然もなくし、夏のプール授業の削減など、子どもたちの教育環境をもっと川崎市は真剣にお考えいただけないでしょうか、八ヶ岳と聞くと自然教室が出てくるほど、思い出で終わらせずに、何とか継続できるようにお願いします。</p>	<p>富士見町内での移転については、現地での再編整備における課題の一つである地形的な課題は払しょくされるものの、自然教室は他施設活用により実施していくこと、現在の施設における自然教室以外の利用の多くが、夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、他の敷地に移転する場合であっても、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地を新たに取得し、60年以上使用する施設を整備し保有することは、利用状況及びコスト比較の観点から難しいものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。</p> <p>なお、自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道德などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、こうした活動に全ての子どもが参加で</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>きるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
55	<p>川崎市の元教員です。八ヶ岳少年自然の家は学校では学ぶことのできないたくさんのこと学んだり実感できます。このような貴重な学びができる少年自然の家の用途を廃止するということには反対です。確かに、古い施設ではありましたので、ぜひ、建て直してほしいと思います。土砂災害の特別警戒区域だそうですが、今まで一度もそういう災害が起きるという可能性について聞いたことがありません。そのような災害が起きた話も聞きません。急に出てきた話のように感じます。また、一部が、ということですから、全体に施設が建てられないということではないと思います。</p> <p>等々力緑地の再編整備で、川崎市は1,200億円もの巨額な市税を使おうとしています。緑地の再編整備では、子どもたちのための緑地という視点が全く見えません。大人向けの儲かる施設ばかりをつくろうとしています。どうぞ、子どもたちのために大切な市税を使ってください。子どもたちの貴重な学習の場である八ヶ岳少年自然の家を、ぜひ再建してください。残してください。八ヶ岳少年自然の家の廃止に</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けています。ほか、設備機器についても多くの耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	は、強く反対します。	<p>験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
56	デイケアのキャンプなどで利用したことがあり、なくなるのは大変に残念に思っています。ですが、安全性などを考えると廃止は避けられないのではと思います。	八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。	B
57	川崎市在住ですので、八ヶ岳での自然教室が川崎市の小学生にとって当たり前のものと思っていましたが、老朽化が進んでいること、災害リスクなどでの改修が必要だがコストがかかることを考えると、子どもと自然教室で同じ経験の共有ができないのは残念ですが、廃止も止むを得ないと思います。	このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。	
58	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。今後気になるところとして、利用中止後の自然の家の施設をどうするかが気になります。放置となり、不法侵入者や不法投棄の温床になるのは避けてもらいたい。	八ヶ岳少年自然の家の跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。また、敷地については、適切な管理について検討していきます。	C

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
59	川崎市の元教員です。現職時代、数多く八ヶ岳の施設を利用してきました。川崎から近く、自然がいっぱい、こんなに広々とした施設は他にはないといつも思っていました。 廃止になつたら、アストロハウス、天体望遠鏡はどうなるのでしょうか。	八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、他の敷地での移転整備も含め、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。	D
60	小中学生で1回ずつ宿泊行事で使用し、高校では地学部の宿泊行事で毎年使ってきました。特にアストロハウスは、日本で見ても貴重なほど、重要な設備です。とても高性能な機器を用いて行う星空観察は、非常に貴重な経験であり、小さい頃の星を見た思い出としても深く心に刻まれています。ぜひ残してもらいたい。	このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、アストロハウスも含めた跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。	
61	八ヶ岳少年自然の家は、小学校の自然教室に加え、高校の地学部での合宿で2回、計3回利用したことがあります。少年自然の家は、自然教室のためだけの施設ではありません。特にアストロハウスはなんとしても残していただきたいです。アストロハウスは私にとって天文学、ひいては科学への入り口でした。後輩に扉を残したいのです。私たちから宇宙を取り上げないでください。		
62	アストロハウスと宿泊施設を継続してほしい。		
63	アストロハウスは大変有用な施設であるため、アストロハウスと一部宿泊施設は残して欲しいです。		
64	アストロハウスおよび宿泊施設は大変有用な施設のため、これからも継続してほしい。		
65	八ヶ岳少年自然の家について、アストロハウスと併せて一定規模の宿泊施設を残していただけますようお願いいたします。 アストロハウスには、口径20cmの大型天体望遠鏡が4台も設置されている、類稀な施設です。天体観測に最適な標高の高い八ヶ岳の澄んだ空気と美しい星空の中、これらの望遠鏡で様々な天体を観察できます。初心者にとって敷居が低いだけでなく、4台同時稼働すること		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>で短時間で効率よく天体の観測ができる等、極めて効果的に天文に関する学習ができます。これに匹敵する施設は他に類を見ません。この場所で沢山の学生さんや社会人の方々が星空のことを学び、天文学への興味や関心を育み、またその経験を後輩に伝えてまいりました。これからも、自然の中で天文学に触れ、学び、感動する機会の提供を、ぜひとも継続していただきたいと願います。</p>		
66	<p>青少年科学館で天文サポーターのボランティアをしています。また、40年来、星を見るお手伝いを八ヶ岳でさせていただきてきました。</p> <p>八ヶ岳という星を見るには絶好の場所で、生田緑地のメガスタートープラネタリウムと連動して、子どもたちに星を見せてあげられる環境は、ぜひ残していただきたいと考えます。子どもたちのアストロハウスでの、「リアル」なプラネタリウム体験は、何ものにも代え難いものです。また、常設のクーデ望遠鏡、スライディングルーフというアイデアは、他に例を見ない画期的なものであると認識します。</p> <p>一方で、宿泊棟などの老朽化などを考慮すると建て替え等は必要と認識されるものの、ぜひアストロハウスを存続させる形での、検討が必要であると思います。また、生田の青少年科学館との連携による活動など、より積極的な活用方法も検討できるものと思います。</p>		
67	<p>小学生の時に自然教室で、八ヶ岳に行った自身の感想としてはすごく残念に思いますが、それなりのリスクがあることも理解できました。アストロハウスについて、完全に利用不可の状態になってしまうのはもったいないと考えております。</p> <p>よく、かわさき宙と緑の科学館を使用させていただいておりますが、科学館の所有するアストロテラスは八ヶ岳少年自然の家のアストロハウスがもととなっていると伺っております。実際、同じようなスライド式の施設であり、20cmの反射望遠鏡が導入されております。かわさき宙と緑の科学館での観望会でも星は見ることは可能ですが、やはり八ヶ岳とは違います。私が小学生の時の感想も含んでしまいます</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>が、授業にプラスしてメガスター（プラネタリウム）を用いて星について学び、土日に足を延ばして科学館に来訪するより詳しかったり実際に眺めたりといった体験ができ、自然教室で（もちろん天候に左右されますが）自然の星を見る、というのはなかなかできない体験だと思います。施設が変わっても天体観測は可能かもしれませんが現状の20cm望遠鏡4台がある環境を、位置と手放してしまうと、今後取り戻すのは不可能に近いと思います。</p> <p>アストロハウス自体は土砂災害リスクのない箇所に建てられているということもあるので、天体観測可能な市の施設として存在してもらえると、意義が大きいのではないかと考えます。</p>		
68	<p>家族で年2～3回利用しています。四季を感じられる良い場所、星空観察できる施設、自分のことは自分でやるスタイルと、子どもと一緒に行くのに大変重宝しています。</p> <p>川崎市民として引き続き利用できるように、存続の検討をしていただけると嬉しいです。例えばクラウドファンディングや、ふるさと納税等利用するとか、どうでしょうか。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けています。設備機器についても多くの耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期</p>	D
69	<p>市外在住・在勤ではありますが、かつて市内の中学校に通い、所属していたスポーツクラブの選手・指導者として利用していました。施設の維持保全について、土砂災害特別警戒区域に指定されている部分は閉鎖または縮小する、ソーラーパネルを設置し電力使用量の節約に取り組む他、施設の資材・備品については、クラウドファンディング等で広く募集してみてはいかがでしょうか。</p>		
70	<p>八ヶ岳少年自然の家は、とても衛生的でかつ、子どもに合わせて様々な自然体験ができる場所、何をするにも子どもファーストで対応してくださる素敵な場所です。</p> <p>クラウドファンディングなど、どうにか存続する方法はないか再度検討していただきたいです。</p>		
71	<p>八ヶ岳少年自然の家は、小学校の自然教室に加え、高校の地学部での合宿で2回、計3回利用したことがあります。少年自然の家は、自</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	然教室のためだけの施設ではありません。特にアストロハウスはなんとしても残していただきたいです。クラウドファンディングなどで存続のための資金を募ることはできないでしょうか。	休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止します。 なお、現地での再編整備については、毎年、他施設での実施より約1億7千万円多く費用がかかることから、クラウドファンディング等により毎年安定的に財源を確保することは難しいものと考えます。	
72	中学1年生です。老朽化や土砂災害特別警戒区域に指定されていることに関しては、施設を新しく建て直したり、今あるものを移動させたりすることは、SDGsの面で考えると、あまり良いことではないように思います。老朽化で、施設を修繕する必要があるのであれば、クラウドファンディングなどで、お金を集めれば、私と同じような意見の人が、たくさん寄付してくれると感じます。 繰り返しになってしまいますが、私は少年自然の家はある場所で、あの空気が味わえるように残ってほしいと考えます。		
73	川崎市の元教員です。現職時代、数多く八ヶ岳の施設を利用してきました。川崎から近く、自然がいっぱい、こんなに広々とした施設は他にはないといつも思っていました。 自然教室施設の廃止に断固反対します。どうしても廃止するならその理由を市民が納得するように説明してください。施設の老朽化を理由に廃止にするのはあまりにも無謀すぎます。木造施設ですので作り直すことは可能です。 また、一部が土砂災害危険区域に指定されたことも理由の一つとありますが、施設ができるから一度もそういった事実はありません。かなり大雨の時に泊まつたこともありますが、次の日には雨水が引けて、何も支障はありませんでした。廃止の方針は老朽化、レッドの指定、コストの理由の他に何かあるはずです。	八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けています。設備機器についても多くが耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。 その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がな	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		くなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。	
74	<p>本政策について、非常に強い懸念を覚える。第一に、本政策の合意形成のあり様について市当局の強引さを感じる。市の施設、それも社会教育施設の廃止をめぐるものであるが、適切に社会教育団体へのヒアリング調査はしたのか、また子どもの権利条例に則った形で子どもの意見などを聞いたのか疑問が残る。</p> <p>昨今、国は社会教育法の改正を視野に、中教審へ諮問を行っており、社会教育は人口減少や少子高齢化社会のなかでその役割をますます重視されてくる。であるならば、廃止するのであれば、やはり長い時間をかけて行うべきものと考える。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家の再編整備については、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p> <p>以上のことから、考え方策定に当たり、八ヶ岳少年自然の家の自然体験活動等の状況について、青少年育成連盟</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		加盟団体等とのヒアリングや利用団体に対しアンケート等を実施したほか、子どもからは、他施設における自然教室での実施について、活動の充実度等を確認しておりますが、施設廃止の判断については、長期的な安全性の確保等、総合的に勘案して判断したものです。	

(3) 青少年育成連盟加盟団体やその他利用団体の活動に関するここと（8件）

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
75	<p>ボーイスカウトです。八ヶ岳少年自然の家は長年、夏のキャンプや冬のスキー訓練で利用しています。今般の老朽化に加えて土砂災害特別警戒区域指定という状況では、今後継続しての利用は困難だと思います。</p> <p>一方、青少年育成の場として、自然に触れ合い、その中で創意工夫しながら野外活動をすることは非常に大切だと考えます。自前の自然の家設立が難しい場合、他県あるいは国公立の施設利用が比較的優先的に実施することができれば、その代替手段になろうかと思います。現状では、他県あるいは国立の施設利用時には優先順位が低く、簡単には予約・利用することができない状況です。複数施設の優先利用をお願いしたいと思います。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、ボーイスカウトをはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D
76	<p>ガールスカウトです。市内の学校が神奈川県内等の施設を利用し、教職員の負担軽減に成功していることを鑑みると、利用者の 14.7%のために施設の存続や代替施設の建設は、支出の公平性の観点から難しくないと感じました。長年利用してきた施設の閉鎖は寂しく、残念ではありますが、案に賛成します。</p> <p>一方で、施設が廃止され、代替施設も建設されないのであれば、影響を受ける青少年団体の宿泊を伴う自然体験活動を支援する目的で、往復バスの借り上げ料を補助する助成金の創設を希望します。</p> <p>ガールスカウトは、普段から神奈川県内の自然体験施設を利用して活動しております。そのため、夏や冬のキャンプは、神奈川県内では体験できないような自然の中で過ごせるように遠出をします。</p> <p>私はボランティアで構成される青少年団体ですので、キャンプ等は子どもたちから実費を集めて、節約しながら、自然体験活動を推進しておりますが、近年の物価高騰で、参加費の値上げをせざるを得ない状況です。特に課題となるのが往復バスの借上料の高さです。20名程度で移動しますので、公共交通機関を利用するよりバスの方が安全で費用も抑えられます。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、ガールスカウトをはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	近隣の目黒区では、区内の青少年健全育成団体に対する同種の助成があります。川崎市でもぜひ市内の川崎市八ヶ岳少年自然の家利用団体の自然体験活動を支援する助成金創設をご検討いただければ幸いです。		
77	<p>八ヶ岳少年自然の家が、長年にわたり地域における子ども会活動に果たしてきた役割について、市としてどのように評価されているのか、ぜひお伺いしたいと考えます。</p> <p>同じ施設で、同じ体験を繰り返し共有してきたことにより、子ども会の役員同士に強い絆が生まれ、その関係性が先輩役員から後輩役員へと自然に引き継がれてきたと感じています。もし、自然教室や青少年活動の実施場所が年度ごとに変わるような形になった場合、これまでのような体験共有による理解や連帯感は、同様に育まれるのでしょうか。こうした継続的な体験の共有がもたらしてきた地域的・社会的な価値について、市としてどのように捉え、今後どのように担保していくお考えなのか、お示しいただければと思います。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、昭和 52 年の開設以来、多くの市民にとって共通体験の場となっており、当該施設が子ども会活動に果たしてきた役割については、大切なものであると認識しています。</p> <p>一方で、令和 6 年度実績で、自然教室での利用以外に、子ども会をはじめとした団体利用、グループ・家族利用がありますが、今後、他施設活用により、利用の 8 割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、施設閉止予定である令和 10 年度までは、引き続き利用可能です。</p>	D
78	<p>今回の八ヶ岳少年自然の家についての報告、とても寂しく思いました。私はずっと地元で、子どもの頃から、大人になっても子ども会運営に関わっていたので、何度も八ヶ岳に泊まりました。</p> <p>様々な条件もあり、続けて行くのは難しいのは理解できます。ただ、対価として同様の利用料金で泊まれる施設を望みます。川崎市なら達成できると思います。今後を期待しています。</p>		
79	<p>子ども会が別施設を予約しようとすると 6 か月前に（1 か月前というところもあります）やっと先着順や抽選で予約ができるといった具合で年間予定が組めない。</p> <p>また、利用料については、市からのバス代補助もあり、二泊三日の研修を 1 人あたり 10,000 円ほどで行っていますが、別施設を利用する場合は自然の家より大きく金額が上がり、現状の研修参加費では実現不可。仮に YMCA 三浦で一泊するだけで 10,000 円超えとなります。この場合、バスは使用せず電車と徒歩利用です。</p>	<p>なお、青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、子ども会をはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用</p>	

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>青少年育成を目的としている子ども会としては、学校と同じように早くから予約でき、利用料、バス代金の補助がないと現状と同じ研修ができません。子育て支援に力を入れているのは口ばかり？と疑問にさえ思います。他施設への予約の優先枠、利用料の補助金が出ないのであれば、川崎市としての宿泊施設の確保を強くお願ひします。</p> <p>建設費がかかるのは仕方ない、等々力や富士見公園などの改修は出来て、なぜ八ヶ岳はできないのか？出来ないならば青少年育成団体を学校と同程度の扱いしてもらいたい。切に訴えます。学校以外の居場所として私たちの研修会に参加し、期待している子どもたちへ市として考えるべきかと思います。もちろん、市内の子どものほんの一握りしか参加していない。という意見もあるでしょうが、今参加している保護者も小学校時代に参加し、八ヶ岳に行った方も多いです。市の大財産かと思います。</p> <p>個人的な意見としては、八ヶ岳や自然のある場所へ新たに土地取得と新施設建設が希望ですが、他施設利用の優先予約など、活動に支障のない配慮を求めていきます。</p>	に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。	
80	<p>この施設を廃止するのであれば、青少年育成団体も安定して野外活動の計画を立てられる施策を検討していただきたいと願います。</p> <p>地域の育成では活動では年齢・学年ごとにステップを踏んで成長することを目指しますが、年間計画ができなければ、年度ごとに利用できる状況が変わってしまうので継続的な異年齢間の伝達も乏しくなってしまいます。経験ではなく受動的な「体験」だけの研修になるのはと危惧しています。また毎年検討しなければならない状況では地域のボランティアが疲弊し、活動に協力してくれる新たな人材確保がより難しくなると。</p> <p>個人的な希望としては、廃止をしてほしくないと願いますが、川崎市の青少年団体が年間計画を立てられるような方法をお願いしたいです。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
81	<p>現在の施設の再整備や移転に多額の費用がかかるため、自然教室は他施設を使用する方向性としてはよいと思います。</p> <p>自然教室以外で使用している市内のファミリーや青少年団体への配慮は必要で、八ヶ岳は格安で優先的に予約を取ることができていたので、他施設でもできるようにしてほしいです。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組んでまいります。</p>	D
82	<p>本政策について、非常に強い懸念を覚える。優先的な予約についての取り組みが記されていない点である。市が多様な施設を紹介するのは当然のこととして、こうした施設がいったいいつ、どのように予約ができるのかという点は記されていないよう感じる。</p> <p>ほぼ対案がない中で、こうした合意形成がなされることに強い不満を感じる。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D

(4) その他（2件）

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
83	<p>現在、今後12年を見据えた教育プランが検討されており、その第一に「探究的な学びの充実」が掲げられています。子どもたちが自ら問いを立て、世界を深く見つめる力を育していくという方向性は、これから教育にとって大きな柱となるものです。その探究の舞台として、八ヶ岳少年自然の家が持つ存在感は、今後さらに増していくと感じています。朝の冷たい空気、森の匂い、足元の小さな生き物の動き——こうした“本物の自然”に触れる体験は、子どもたちの中に静かに、しかし確かに問いを芽生えさせます。</p> <p>八ヶ岳少年自然の家は、「探究的な学びの充実」のテーマと深く結びつくアクティブラーニングのフィールドとしても極めて有力な教育資源として位置づけられるのではないでしょうか。</p>	<p>各学校の実情に応じて、自然教室を通して、「探究的な学び」を深める教育課程を組む場合も想定されます。自然体験は、子どもたちが自ら問いを立て、学びを広げる契機となる重要な機会と考えており、自然教室の実施目的と同様の学びは、他施設を活用することでも達成できるものと判断しています。</p> <p>また、現状、各学校においては、市内公共施設のほか、様々な地域資源を活用し、「生活科」や「社会」、「総合的な学習」等の課程において、自然に触れる体験活動や特色ある探究的な取組が行われています。</p> <p>今後も、こうした取組を尊重しつつ、自然教室を含めた多様な学びの場を活かして、子どもたちの主体的な学びを支援してまいります。</p>	E
84	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>川崎市の友好都市である富士見町に施設があること。法人としては子どもの健全育成活動を主旨としているため都市間交流もでき非常にありがとうございます。以前の意見収集でも記載しましたが友好都市について何故資料では触れられていないでしょうか？</p> <p>友好都市との都市間交流を民間として継続的に実施したいと思っていますので、富士見町内の存続を願います。</p>	<p>御指摘に基づき、富士見町とのこれまでの友好都市としての交流や本方向性に関する富士見町への説明の状況等について、本編に記載しました（61頁及び65頁参照）。</p> <p>富士見町とは、平成5年の協定締結以来、双方のイメージアップや文化芸術・人材等の相互交流など、様々な機会を通じて、長年に渡り、友好都市として良好な関係を構築してきました。</p> <p>様々な状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、今後についても、友好協定書に基づく継続した交流は重要であると考えていますので、引き続き、それぞれの地域特性を生かした効果的な交流促進に努めてまいります。</p>	A